



「ぎんなん」 豊玉高校支援会議だより 第1号 H25.2.28

発行元：豊玉高校支援会議宣伝部 〒817-1201 長崎県対馬市豊玉町仁位 1331-2(長崎県立豊玉高等学校内)

会長あいさつ 豊玉高校支援会議 会長 松井旦壽



この度、「豊玉高校支援会議」を立ち上げることができました。志を同じくする関係の皆様と喜びを共にしているところです。

さて、小・中学校の「学校支援会議」は多くの学校で定着しています。取組みに差はありますが、学校の応援団、なくてはならない組織に育っています。しかし、県内の高校では豊玉高校のみの設置で、全国的にも珍しいケースだと聞いています。

この会議の目的は、学校と家庭と地域が一体となって、豊玉高校のよりよい教育の実現と発展のために活動することです。決して若いとは言えないメンバーが中心ですが、豊玉高校のために労を惜しまず力を尽くそうと考えています。また、時としてあえて苦言も呈しようとも考えています。それは、豊玉高校がこれまでもそうであったように、これからもこの地で発展し、有為な人材を郷里のために輩出して欲しいと願ってやまないからです。

豊玉高校は、平成25年度に創立40周年を迎えます。昭和25年に開校した仁位分校の年月も含めると60有余年の長き歴史です。登下校する子どもたちの挨拶や笑顔、グラウンドのフェンス越しに見える躍動する姿など、高校によらず学校の存在は地域に活力を与えてくれます。豊玉高校も長きに渡り地域を元気づけてくれました。

私たちも、これまでの活動を通して、高校生に若さとエネルギーをもらっているような気がしています。地域と学校が互惠関係を一層深め、活気と魅力にあふれるまちづくりに貢献したいと考えています。これからの私たちの活動にご理解ご協力をいただけるようお願いし、会発足のあいさつとさせていただきます。

校長あいさつ 長崎県立豊玉高等学校 校長 吉田 寿



少子化・過疎化の進行に伴って、長崎県では県立学校の再編整備が進められてきました。ここ10年くらいの間に、存続を願う地域の声もむなしく数校が統廃合の対象となりました。本校も、平成8年の328名をピークに年々生徒の減少が続き、現在の生徒数は63名です。来年度から募集定員が1クラス分(40名)となり、完成年度の平成27年度にはキャンパス校(仮称)へ移行する予定です。その後、2年連続して志願者が20名を大きく割り込むようなことがあると、統廃合の検討に入ることになります。

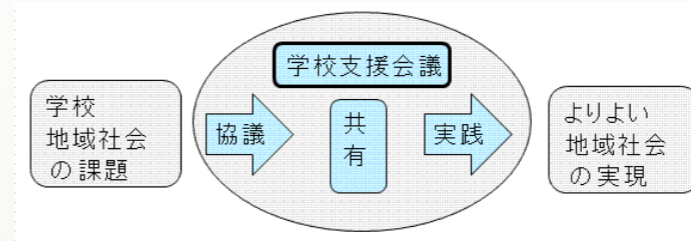
そこで、小中学生から進学したいと思ってもらえるように、学校改革を進めるとともに、学校活性化の手だてを考えてきました。「対馬の子どもは対馬で育てる」、「豊玉の子どもは豊玉で育てる」。自信を持って言うために、まずは地域からもっと信頼される学校に変わっていかなければなりません。生徒の学力を高め、進路実現をかなえる。身なりや挨拶をきちんとし、地域の方々が眉をひそめるような生徒のいない豊玉高校にする。

今年度から朝自学や校内検定を開始し、「～関わる力、日本一 豊玉高校～」のキャッチフレーズのもと、職員・生徒一丸となって学校力の向上に努めた結果、学校はかなり落ち着いてきました。次は、地域の教育力を活用して学校の活性化を図りたいと考えています。そこで出番を迎えたのが、「豊玉高校支援会議」なのです。すでに、4回の会議を重ねる中で熱いご意見をいただくとともに、学校行事等にも参加していただいています。今後は、学校として地域に何ができるかということも検討していただき、双方向の活動に高めていきたいと考えています。地域の皆様のご支援のほど、よろしく申し上げます。

豊玉高校支援会議って何？

◎豊玉高校支援会議とは

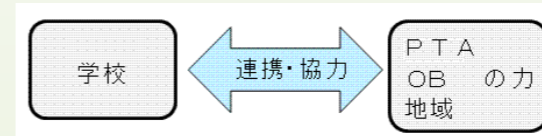
豊玉高校支援会議(略称:豊高支援会議)は学校支援会議という組織の一つです。学校支援会議とは、学区の教職員・保護者・地域住民の代表者が、地域で育む子ども像や目指す地域像を共有し、その実現に向けて、三者が役割を果たしながら連携・協働するしくみのことで、すでに多くの小・中学校で設置されています。そして、今回豊玉高校では県内の高校では初めての取り組みとして学校支援会議を設置しました。



◎豊玉高校支援会議の活動概要

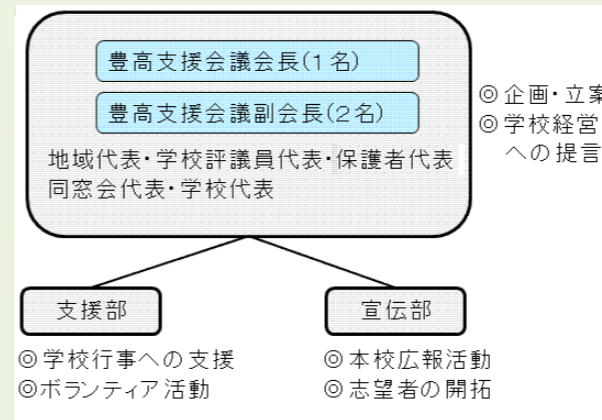
豊玉高校支援会議では主に次のような活動を予定しています。

- ・学校経営への提言
- ・豊玉高校PRと本校志望者の開拓
- ・学校行事・ボランティア活動・あいさつ運動・清掃活動等への参加



◎豊玉高校支援会議の組織

豊玉高校支援会議は全体会である総会と、2つの部会から構成されています。支援部は学校行事の支援活動など、宣伝部は豊玉高校の広報活動などを行う予定です。メンバーは地域代表、学校評議員・学校評議員経験者、保護者代表、同窓会代表、学校代表で構成されています。



「ぎんなん」: 豊玉高校の校樹の銀杏(イチョウ)の実である「ぎんなん」のように、支援会議の活動が実りあるものになるとともに、本校の生徒にとって実りある高校生活にしてほしいという意味を込めて、広報紙のタイトルとしました。

豊玉高校の今後の生徒数は？

豊玉高校では生徒数の減少が続いており、中学校の先生や地域の方々などから「豊玉高校は今後どうなるの？」という声をいただきます。そこで、豊玉高校近隣の小中学校の生徒数を見てみましょう。

現在の学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
児童・生徒数	52	61	72	65	57	76	66	51	57
高校入学年度	H33	H32	H31	H30	H29	H28	H27	H26	H25

中学校：豊玉・東部・西部・浅海 小学校：左記中学校校区内の学校

長崎県の現在の基準では、「1学年1学級（40名）が全学年で完成してから、2年連続で1学年20名程度を下回る状況になれば統廃合の検討に入る」とされています。つまり、豊玉高校では平成27年度以降、1学年20名の生徒を維持できるかが存続のカギになります。そこで、上の表を見てみると、本校近隣の小中学校の児童・生徒数は各学年50～70名程度で推移します。毎年この児童・生徒数から40%以上の入学があれば、豊玉高校の1学年あたりの生徒数は20名を超え、県の統廃合の基準を上回るようになります。

つまり、この1～2年で豊玉高校が統廃合の対象になることはなく、さらにその後も十分に存続できるということです。そのためには当然のことながら、豊玉高校が地域の子どもたちに対して魅力ある学校作りをしていかなければなりません。そこで、豊玉高校では平成24年度から「朝自学」や「校内検定」などの学力向上策も開始しています。地域の方でも豊玉高校への進学をぜひ考えていただければと思います。

下線ア：募集段階から1学年1学級となった年をスタートとします



豊玉高校点描 ～記念誌や過去のアルバムから～



仁位分校～独立初期の校舎



平成5年の卒業生集合写真

※豊玉高校支援会議の活動についてのご意見やご感想を豊玉高校へお寄せください。

〒817-1201 長崎県対馬市豊玉町仁位 1331-2 TEL 0920-58-0399 FAX 0920-58-8490

豊玉高校思い出話 第1回 宣伝部委員（同窓会副会長） 安田壽和

私が豊玉高校に入学したのは、39年前のことです。その当時、巨人軍の日本シリーズ9連覇で社会は盛り上がり、天地真理や麻丘めぐみなどのアイドルの歌が町に流れていました。

当時の校舎は仁位小学校・仁位中学校・豊玉高校が同じ敷地内にあり、体育の授業も同じ運動場を使用していたので、中学校の体育の授業が教室の窓から見えていました。部活動の時は、狭い運動場を小・中・高で、効率的に利用していました。

現在の校舎に建て変わる以前は木造校舎で、1学年3クラス編成で全校生徒数は300人位だったと記憶しています。部活動が盛んで、特に陸上部は全国4位（作元澄子さん）にランクされると言う輝かしい成績を修め、一目置かれていました。

今思うと、とにかく上下関係が厳しい学校だということが一番の思い出です。一つ例をあげれば、私は、卯麦から渡海船に乗り仁位港から徒歩で30分位かけて学校に通っていました。その渡海船内では乗る場所が決まっていて、3年生は2階の客室に入り、1・2年生は外のデッキに乗り雨の日も風の日も通学していました。



そのような中、私自身余り立派な生徒ではありませんでしたが、恵まれた自然と母校豊玉高校に生きる力をいただいた事に感謝しております。

いずれにしても、少子化に伴う時代の変化により現在の全校生徒数は63人まで減少したと耳にし、寂しく思う今日この頃ですが、最後に無限の可能性をひめた数多くの生徒が入学して、豊玉高校の学び舎から立派に巣立っていられる事を心よりお祈り致します。

豊玉高校支援会議活動の記録

- 平成24年10月12日（金） 第1回会議：役員選出、活動方針検討、会則作成
- 11月 6日（火） 第2回会議：生徒数推移・地域アンケートの分析
- 11月16日（金） 第3回会議：会則改訂
- 11月22日（木） マラソン大会：スタートの号砲
- 11月以降随時 あいさつ運動：登校時の生徒への声かけ
- 12月25日（火） 市長訪問：財部市長に豊玉高校の現況や支援会議の活動を説明
- 平成25年 1月30日（木） 第4回会議：支援部・宣伝部の活動内容検討
- 2月 4日（月） 宣伝部会議：広報紙作成作業
- 2月20日（水） 宣伝部会議：広報紙作成作業
- 2月28日（木） 宣伝部活動：広報紙発行
- 支援部活動：餅つき（卒業祝） ※PTAと合同



第1回会議



マラソン大会



市長訪問